ドクターメモ

変形性膝関節症はどんな病気？

変形性関節症とは、関節の軟骨がすり減ってしまった関節疾患のことを指します。変形性膝関節症や変形股関節症などというように、部位によって名前が変化します。その中でも今回は、変形性膝関節症について説明します。

変形性膝関節症になってしまう原因は何でしょうか。変形性膝関節症には(1)加齢による経年的変化や膝への負担で起きるもの、(2)以前のけがや膝関節の炎症性疾患などに引き続いて起きてくるものなどがあります。

症状は通常、痛みです。水腫と言って、関節液が多量にたまってしまい腫れることもあります。ほかに、関節の動きが悪くなってしまったり、見た目の変化として、O脚やX脚になったりすることがあります。

診断には、まず診察を行い、続いて単純X線検査を行います。より詳しい情報が必要な場合には、CT検査やMRI検査を行います。

治療は大きく分けて2つ。保存療法(手術なし)と、手術療法があります。保存療法では、膝への負担を和らげる目的で、生活指導や筋力訓練を行い、痛みに対しては症状を和らげる目的で、鎮痛剤や湿布を使用します。場合により、関節内にヒアルロン酸の注射を行います。保存療法に効果がなく、生活に支障が出るような場合には手術を行います。手術方法には関節鏡手術、骨切り術、人工関節置換術などがあります。

経年的変化以外の変形性膝関節症を予防するためには、膝への負担を避けること、例えば体重増加や太ももの筋力低下などを起こさないようにすることが大事です。適度な運動を心がけ、規則正しい生活を送りましょう。気になることがあれば、早めに整形外科で相談をしてください。

吹田市医師会　大西（おおにし）　雅之（まさゆき）